

都道府県別スクリーン数の推移(2008-2017)

全国的に見ると、2008年から2017年の10年間で、スクリーン数は3361スクリーンから3531スクリーンへ、170スクリーン増加している。この10年は、その半ばに2011年3月11日の東日本大震災があり、2009年頃に始まった映画館のデジタル化(フィルムからDCPへの移行)が2013年にほぼ完了するという大きな変化を挟んでいる。2010年から2012年にかけてスクリーン数が100以上減少するという現象が見られたが、その後、デジタル化が完了した2013年以降は再び増加に転じている。

この10年間でスクリーン数が大幅に増加した主な都道府県は、愛知(49増)、埼玉(25増)、京都(23増)、山形(20増)、千葉(19増)、大阪(19増)で、大都市を擁する都道府県においては、都市型(中心市街地型)のシネコンの開館が続いている。東京は10年間では17スクリーン減となっているが、直近の3年間をみると30スクリーン増となっている。

このスクリーン増を牽引しているのが「TOHOシネマズ」と「イオンシネマ」である。イオンシネマ(2013年までは「ワーナーマイカルシネマ」)は、2008年以降28サイト、251スクリーン開館しており、現在では90サイト以上を展開する国内最大のシネコンチェーンとなっている。また、TOHOシネマズも、この10年で18サイト173スクリーンをオープン、日本橋、新宿、上野といった都心に次々と新たなシネコンを開館し、注目を集めている(2018年3月にはTOHOシネマズ日比谷がオープン)。

スクリーン数の減少が目立つ主な都道府県は、宮城(22減)、岐阜(20減)、東京(17減)で、宮城県では、2008年94スクリーンが2011年には64スクリーンと30スクリーン減少したが、2016年にTOHOシネマズ仙台(9スクリーン)がオープンし、2017年現在は72スクリーンとなっている。

→ [fig.07](#)

fig.07

都道府県別 スクリーン数の推移 (2008-2017)

	2008	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	スクリーン数増減 (2008-2017)
全国	3,361	3,396	3,414	3,338	3,290	3,318	3,364	3,437	3,476	3,531	170
1 北海道	124	124	124	122	119	118	114	113	114	114	-10
2 青森	45	45	45	45	45	44	44	44	44	44	-1
3 岩手	27	27	27	27	25	25	25	25	23	23	-4
4 宮城	94	95	95	64	64	64	64	64	73	72	-22
5 秋田	23	23	23	23	22	21	21	21	21	20	-3
6 山形	36	35	47	47	47	47	56	56	56	56	20
7 福島	28	27	29	28	27	26	26	26	26	26	-2
8 茨城	80	88	88	88	88	91	91	89	89	90	10
9 栃木	57	58	58	58	58	58	57	57	64	64	7
10 群馬	70	72	71	71	62	62	62	63	61	61	-9
11 埼玉	184	193	193	184	182	200	200	209	209	209	25
12 千葉	190	188	190	182	176	189	199	199	208	209	19
13 東京	382	364	357	353	342	336	335	358	359	365	-17
14 神奈川	197	198	216	217	216	216	218	208	209	210	13
15 新潟	66	66	66	66	66	64	63	63	64	64	-2
16 富山	30	23	23	23	23	23	23	23	31	26	-4
17 石川	46	54	54	54	54	54	54	54	54	61	15
18 福井	31	31	31	31	31	31	31	31	31	31	0
19 山梨	22	22	22	18	18	14	14	14	14	14	-8
20 長野	63	64	60	67	66	65	65	63	63	72	9
21 岐阜	76	76	76	60	60	60	56	56	56	56	-20
22 静岡	87	102	101	101	101	99	98	96	96	96	9
23 愛知	244	254	258	251	247	247	258	258	273	293	49
24 三重	49	48	48	48	48	48	58	58	58	58	9
25 滋賀	39	39	38	38	38	38	38	38	38	38	-1
26 京都	55	54	66	65	64	63	75	75	75	78	23
27 大阪	206	206	198	201	195	195	204	224	224	224	18
28 兵庫	113	123	124	115	113	116	117	126	120	121	8
29 奈良	39	33	25	34	34	34	25	34	34	34	-5
30 和歌山	23	22	22	22	22	20	30	30	30	30	7
31 鳥取	14	14	14	14	11	11	11	11	11	11	-3
32 島根	17	15	15	15	15	15	15	15	15	15	-2
33 岡山	29	29	28	28	28	28	39	39	39	39	10
34 広島	77	82	83	78	78	77	72	72	71	71	-6
35 山口	35	35	35	35	31	24	30	30	30	30	-5
36 徳島	9	10	9	8	10	10	10	10	10	19	10
37 香川	26	26	25	25	25	26	19	26	26	26	0
38 愛媛	43	43	52	52	52	52	52	52	59	59	16
39 高知	11	11	11	11	11	10	10	10	10	11	0
40 福岡	160	164	163	176	175	185	184	178	168	164	4
41 佐賀	27	27	20	20	20	20	20	20	20	20	-7
42 長崎	30	30	30	26	26	27	26	26	25	25	-5
43 熊本	53	53	52	50	50	50	50	49	49	49	-4
44 大分	28	29	29	25	25	25	25	35	35	35	7
45 宮崎	18	18	18	18	18	18	18	18	18	18	0
46 鹿児島	24	24	23	23	31	31	31	31	31	39	15
47 沖縄	34	32	32	31	31	31	31	40	41	41	7

〔映画年鑑2009〕、〔映画年鑑2010〕、〔映画年鑑2011〕、〔映画年鑑2012〕、〔映画年鑑2013〕、〔映画年鑑2014〕、〔映画年鑑2015〕、〔映画年鑑2016〕(以上、時事映画通信社)及び〔映画年鑑2017〕、〔映画年鑑2018〕(以上、キネマ旬報社)別冊「映画館名簿」参照

都道府県別にみる

種類別映画館数・スクリーン数の変化(2008-2017)

各地方の都道府県別に、種類別に映画館数、スクリーン数が、10年間でどのように推移しているかをみている。

北海道・東北地方

北海道・東北地方の2017年のスクリーン数は355、映画館数は64で、いずれも2008年比では減少している。

(スクリーン数22減、館数20減) 日本全体に占める割合は、スクリーン数で10%、映画館数で11%となっている。この10年間の人口の増減はマイナス5.2%(全国平均マイナス0.7%)で、全人口の11.2%を占めている。

北海道の10館10スクリーン減、宮城県の4館22スクリーン減が目立っている。北海道では、札幌市で既存興行館7館(「札幌マリオン劇場」2009、「旭川東宝」2010、「札幌東宝プラザ」2011、「ディノスシネマ」2011など)が相次いで閉館したこと、宮城県では仙台市のシネコン2館(「仙台コロナワールド」[12スクリーン]、「泉コロナワールド」[10スクリーン])が震災後に休館から閉館に至ったことが大きな要因である。宮城県では2016年にTOHOシネマズ仙台(9スクリーン)が開館している。東日本大震災後、岩手県沿岸部を中心に移動上映を続けてきた宮古市の映画館「みやこシネマリン」が2016年9月に閉館し、岩手県沿岸部には映画館がなくなった。北海道・東北地方でスクリーン数が大幅に増加しているのは山形県(20スクリーン、2館増)で、この地方で閉館した7館のうち3館が山形県に集中している。(「MOVIE ON やまがた」[フォーラム東根]「イオンシネマ天童」)

また、岩手県、秋田県、福島県は、人口に対するスクリーン数が少ない県で、1スクリーン当たりの人口が54,557人(岩手)、49,769人(秋田)、72,326人(福島)と、全国平均を大幅に上回っており、多くの県民にとって映画館が遠いものとなっている。太平洋沿岸部に限らず、この地方は映画館の空白地域が非常に広く、公共ホールを活用した移動興行が盛んに行われてきた。近年は新しいタイプの自主上映会も増えつつある。人口の減少も進む中、映画館のない地域で、映画文化・スクリーン体験を提供する活動はさらに重要性を増すものと考えられる。

→ [fig.08](#)

fig.08

	2017		2008		2008-2017	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
北海道						
シネコン	12	93	12	93	0	0
ミニシアター/名画座	3	4	6	7	-3	-3
既存興行館	5	15	11	21	-6	-6
成人映画館	2	2	3	3	-1	-1
北海道合計	22	114	32	124	-10	-10

青森県						
シネコン	5	38	5	38	0	0
ミニシアター/名画座	1	2	1	2	0	0
既存興行館	1	3	2	4	-1	-1
成人映画館	1	1	1	1	0	0
青森県合計	8	44	9	45	-1	-1

岩手県						
シネコン	2	14	2	14	0	0
ミニシアター/名画座	1	3	0	1	1	2
既存興行館	4	6	7	12	-3	-6
成人映画館	0	0	0	0	0	0
岩手県合計	7	23	9	27	-2	-4

宮城県						
シネコン	7	65	9	85	-2	-20
ミニシアター/名画座	2	4	2	4	0	0
既存興行館	1	3	2	3	-1	0
成人映画館	0	0	1	2	-1	-2
宮城県合計	10	72	14	94	-4	-22

秋田県						
シネコン	3	18	3	18	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	1	1	0	0
既存興行館	1	1	3	4	-2	-3
成人映画館	0	0	0	0	0	0
秋田県合計	5	20	7	23	-2	-3

山形県						
シネコン	7	51	5	34	2	17
ミニシアター/名画座	0	3	0	1	0	2
既存興行館	1	2	0	0	1	2
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1
山形県合計	8	56	6	36	2	20

福島県						
シネコン	4	26	3	20	1	6
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0
既存興行館	0	0	3	7	-3	-7
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1
福島県合計	4	26	7	28	-3	-2

	2017		2008		2008-2017	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
北海道・東北地方						
シネコン	40	305	39	302	1	3
ミニシアター/名画座	8	17	10	16	-2	1
既存興行館	13	30	28	51	-15	-21
成人映画館	3	3	7	8	-4	-5
北海道東北地方合計	64	355	84	377	-20	-22

関東地方

関東地方の2017年のスクリーン数は1208、映画館数は195で、2008年比で映画館数は38減少しているが、スクリーン数は48増加している。日本全体に占める割合は、スクリーン数で34%、映画館数で33%となっている。この10年間の人口の増減はプラス3.2%(全国平均マイナス0.7%)で、埼玉、千葉、東京、神奈川の4県で増加している。全人口の34.2%を占めている。

この10年間でこの地方では28のシネコンが開館しているが、閉館するシネコンも目立ち始めており、千葉県では、5館が開館する一方で3館が閉館している。閉館した28のシネコンのうち、7館が東京で、2014年以降にオープンしている。東京は、10年間では、34館17スクリーン減となっているのが目立っているが、これは、2010年以降に、ミニシアター/名画座、既存興行館の閉館が続いたことによる。特に渋谷では8つのミニシアター(シネマライズ、シネクイント、ヒューマントラストシネマ文化村通り、シネセゾン渋谷、恵比寿ガーデンシネマなど)が閉館して、注目を集めた。他エリアの名画座・既存興行館の閉館(銀座シネパトス、シネマート六本木、浅草新劇場、浅草名画座、浅草中映、三軒茶屋中央劇場、三軒茶屋シネマ、有楽座、新宿コマ東宝、新宿ミラノ座、上野東急、吉祥寺バウスシアターなど)も続いている。しかし、前述の通り、東京では2014年以降7館のシネコンがオープンし、この3年間では30スクリーン増となっている。埼玉、千葉など首都圏でもシネコンの新設が続いており、都心型のシネコンは今後も増えるものと思われる。

神奈川県では、シネマ・アミーゴ(逗子市)やシネコヤ(藤沢市)、アミューあつぎ(厚木市)、横浜シネマリン、シネマノヴェチェント(横浜市)等、新しいタイプのミニシアターが相次いで開館している。

成人映画館は12館が閉館し、4館7スクリーンとなったが、上野オークラ劇場が2010年にリニューアルオープンした。

→ [fig.09](#)

fig.09

	2017		2008		2008-2017	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
茨城県						
シネコン	10	84	9	71	1	13
ミニシアター/名画座	1	1	0	0	1	1
既存興行館	2	4	4	8	-2	-4
成人映画館	1	1	1	1	0	0
茨城県合計	14	90	14	80	0	10

栃木県						
シネコン	7	60	6	51	1	9
ミニシアター/名画座	1	3	0	0	1	3
既存興行館	1	1	3	5	-2	-4
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1
栃木県合計	9	64	10	57	-1	7

群馬県						
シネコン	6	58	7	67	-1	-9
ミニシアター/名画座	2	3	1	2	1	1
既存興行館	0	0	0	0	0	0
成人映画館	0	0	1	1	-1	-1
群馬県合計	8	61	9	70	-1	-9

埼玉県						
シネコン	22	204	19	177	3	27
ミニシアター/名画座	2	2	2	2	0	0
既存興行館	1	3	2	5	-1	-2
成人映画館	0	0	0	0	0	0
埼玉県合計	25	209	23	184	2	25

東京都						
シネコン	29	269	24	223	5	46
ミニシアター/名画座	36	57	49	78	-13	-21
既存興行館	15	35	35	70	-20	-35
成人映画館	2	4	8	11	-6	-7
東京都合計	82	365	116	382	-34	-17

千葉県						
シネコン	21	203	19	175	2	28
ミニシアター/名画座	2	4	0	0	2	4
既存興行館	1	2	7	13	-6	-11
成人映画館	0	0	2	2	-2	-2
千葉県合計	24	209	28	190	-4	19

神奈川県						
シネコン	21	193	20	180	1	13
ミニシアター/名画座	8	11	3	4	5	7
既存興行館	3	4	7	9	-4	-5
成人映画館	1	2	3	4	-2	-2
神奈川県合計	33	210	33	197	0	13

	2017		2008		2008-2017	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
関東地方						
シネコン	116	1,071	104	944	12	127
ミニシアター/名画座	52	81	55	86	-3	-5
既存興行館	23	49	58	110	-35	-61
成人映画館	4	7	16	20	-12	-13
関東地方合計	195	1,208	233	1,160	-38	48

中部地方

中部地方の2017年のスクリーン数は713、映画館数は111で、2008年比で映画館数は20減少しているが、スクリーン数は48増加している。日本全体に占める割合は、スクリーン数で20%、映画館数で19%となっている。この10年間の人口の増減はマイナス2.1%(全国平均マイナス0.7%)で、愛知県以外では人口が減少している。全人口の16.8%を占めている。

愛知県の49スクリーン増、岐阜県の20スクリーン減、石川県の15スクリーン増が目立っている。この地方では10年間で20のシネコンが開館しているが、愛知県だけで8館82スクリーンを占め、このうち4館が2016-2017年にオープンしている。人口に対するスクリーン数が多い石川県でも2017年にさらに1館のシネコン(イオンシネマ新小松)が開館している。他方、富山県や岐阜県ではシネコンが閉館している。特に岐阜県ではスクリーン数が20減となっている。富山県では、シネコン「富山シアター大都会」と、まちづくり会社が運営するミニシアター「フォルツァ総曲輪」が2016年に閉館、同年新たにシネコン「JMAXシアターとやま」(8スクリーン)がオープンしている。

新潟県「高田世界館」、長野県「長野ロキシー/長野松竹相生座」「上田映劇」「塩尻東座」は、番組編成を既存興行館の大作中心のものから、ミニシアター/名画座的なプログラムに移行して新たなイメージで運営を継続している。静岡県では10年間で既存興行館11館が閉館し、0館となった。

→ fig.10

fig.10

	2017		2008		2008-2017	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
新潟県						
シネコン	7	61	7	59	0	2
ミニシアター/名画座	3	3	2	2	1	1
既存興行館	0	0	1	1	-1	-1
成人映画館	0	0	4	4	-4	-4
新潟県合計	10	64	14	66	-4	-2

富山県						
シネコン	3	26	4	29	-1	-3
ミニシアター/名画座	0	0	1	1	-1	-1
既存興行館	0	0	0	0	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0
富山県合計	3	26	5	30	-2	-4

石川県						
シネコン	7	59	5	44	2	15
ミニシアター/名画座	1	1	1	1	0	0
既存興行館	0	0	0	0	0	0
成人映画館	1	1	1	1	0	0
石川県合計	9	61	7	46	2	15

福井県						
シネコン	3	22	3	22	0	0
ミニシアター/名画座	1	1	1	1	0	0
既存興行館	2	8	2	8	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0
福井県合計	6	31	6	31	0	0

山梨県						
シネコン	1	9	2	13	-1	-4
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0
既存興行館	3	4	4	8	-1	-4
成人映画館	1	1	1	1	0	0
山梨県合計	5	14	7	22	-2	-8

長野県						
シネコン	7	53	6	41	1	12
ミニシアター/名画座	3	5	0	0	3	5
既存興行館	5	13	10	20	-5	-7
成人映画館	1	1	2	2	-1	-1
長野県合計	16	72	18	63	-2	9

岐阜県						
シネコン	5	50	6	66	-1	-16
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0
既存興行館	2	5	3	9	-1	-4
成人映画館	1	1	1	1	0	0
岐阜県合計	8	56	10	76	-2	-20

静岡県						
シネコン	11	91	7	59	4	32
ミニシアター/名画座	2	3	2	3	0	0
既存興行館	0	0	11	21	-11	-21
成人映画館	2	2	4	4	-2	-2
静岡県合計	15	96	24	87	-9	9

愛知県						
シネコン	26	274	22	217	4	57
ミニシアター/名画座	7	11	8	12	-1	-1
既存興行館	2	4	3	7	-1	-3
成人映画館	4	4	7	8	-3	-4
愛知県合計	39	293	40	244	-1	49

	2017		2008		2008-2017	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
中部地方						
シネコン	70	645	62	550	8	95
ミニシアター/名画座	17	24	15	20	2	4
既存興行館	14	34	34	74	-20	-40
成人映画館	10	10	20	21	-10	-11
中部地方合計	111	713	131	665	-20	48

近畿地方

近畿地方の2017年のスクリーン数は583、映画館数は97で、2008年比で映画館数は20減少しているが、スクリーン数は59増加している。日本全体に占める割合は、スクリーン数、映画館数とも17%となっている。この10年間の人口の増減はマイナス1.2%(全国平均マイナス0.7%)で、全人口の17.7%を占めている。滋賀県と大阪府では人口が増えている。

この地方では、10年間で16館のシネコンが開館しているが、2016年以降には新たなシネコンはつくられていない。

都心部において既存興行館からシネコンへの移行が進んでいるのは全国的な傾向であるが、特に兵庫県、大阪府においては既存興行館の閉館が目立っている。大阪では10年間で11館が閉館し、既存館は0となった(ミニシアター/名画座は8館14スクリーンが健在である)。

兵庫県でも既存興行館7館が閉館しているが、このうち「豊岡劇場」は、経営者が変わり、大規模なりノベーションを経て、再開している。三重県では「ジストシネマ伊賀上野」が2018年3月に閉館し、既存館が0となった。京都府の23スクリーン増は、京都市内に12スクリーンのシネコン2館が開館したことによるものである。

奈良県では、数値では10年間で2館5スクリーン減と変化は目立たないが、実際は、シネコン3館が閉館し(シネマデプト友楽シネマ8スクリーン、MOVIX 樫原9スクリーン、樫原シネアーク5スクリーン)、2館(シネマサンシャイン大和郡山9スクリーン、ユナイテッド・シネマ樫原9スクリーン)が開館するという大きな変化があった。奈良県内にはシネコン以外の映画館はないが、なら国際映画祭が映画祭期間以外にも定期的に上映を行っている。

→ fig.11

fig.11

	2017		2008		2008-2017	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
三重県						
シネコン	6	50	5	40	1	10
ミニシアター/名画座	1	2	1	2	0	0
既存興行館	1	4	2	5	-1	-1
成人映画館	2	2	2	2	0	0
三重県合計	10	58	10	49	0	9

滋賀県						
シネコン	5	34	5	34	0	0
ミニシアター/名画座	0	0	1	1	-1	-1
既存興行館	1	4	1	4	0	0
成人映画館	0	0	0	0	0	0
滋賀県合計	6	38	7	39	-1	-1

京都府						
シネコン	6	64	4	40	2	24
ミニシアター/名画座	3	6	3	6	0	0
既存興行館	2	6	4	7	-2	-1
成人映画館	2	2	2	2	0	0
京都府合計	13	78	13	55	0	23

大阪府						
シネコン	21	205	17	160	4	45
ミニシアター/名画座	8	14	9	14	-1	0
既存興行館	0	0	11	21	-11	-21
成人映画館	4	5	9	11	-5	-6
大阪府合計	33	224	46	206	-13	18

兵庫県						
シネコン	10	92	8	67	2	25
ミニシアター/名画座	8	13	6	10	2	3
既存興行館	5	13	12	33	-7	-20
成人映画館	3	3	3	3	0	0
兵庫県合計	26	121	29	113	-3	8

奈良県						
シネコン	4	34	5	38	-1	-4
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0
既存興行館	0	0	1	1	-1	-1
成人映画館	0	0	0	0	0	0
奈良県合計	4	34	6	39	-2	-5

和歌山県						
シネコン	2	20	1	10	1	10
ミニシアター/名画座	0	0	0	0	0	0
既存興行館	3	10	3	10	0	0
成人映画館	0	0	2	3	-2	-3
和歌山県合計	5	30	6	23	-1	7

	2017		2008		2008-2017	
	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン	映画館	スクリーン
近畿地方						
シネコン	54	499	45	389	9	110
ミニシアター/名画座	20	35	20	33	0	2
既存興行館	12	37	34	81	-22	-44
成人映画館	11	12	18	21	-7	-9
近畿地方合計	97	583	117	524	-20	59

